

- ・石見銀山世界遺産センターの開館記念日である10月20日（金）に専門職員による展示解説を行います（同日は観覧無料）。

「大久保長安と石見銀山ー徳川家康を支えた天下の総代官ー」 主な展示資料の概要

①大久保長安書状（17世紀初め・橋本家文書）【新発見】



《解説》

佐毘売山神社の巫女の權益を銀2枚で「おはな」が購入した  
ことについて、不平を言うもの  
がなければ大久保長安に訴える  
よう記した書状。「おはな」は他  
の史料で長安に同行して伊豆  
の金銀山に行っていたことが  
確認できるので、長安の側室の  
一人と思われる。

以上

山之神いちめんの

儀、吉岡隼人・岡田宗喜

扱<sup>ニ</sup>、銀子貳枚

買取候由、尤二候、毛利殿

証文并銀山之

代官証文披見候、

たじまいち代ニして

所務可仕候、若於

有違乱者、可申上候者也、

仍如件、

大久保十兵衛

慶長七年九月日 長安（花押）

おはな  
まいる

②ガラス製かんざし（16世紀末～17世紀前半）



《解説》

石見銀山遺跡の於<sup>おべにがたに</sup>紅ヶ谷地区で出土した純度の高  
いカリウム鉛ガラス製のかんざし。大久保長安や  
「おはな」が活動した時代のもの。

③慶長豆板銀（<sup>けいちょうまめいたぎん</sup>慶長6年〈1606〉～元禄8年〈1695〉）



《解説》

石見銀山など諸国の銀山で産出された銀を使って江戸幕府が最初に製  
造した銀貨の一つ。サイズは約1.5センチメートルときわめて小さい。  
品位は銀80%、銅20%。品質を保障する意味で極印<sup>ごくいん</sup>が打たれている（本  
資料では不鮮明だが、「宝」の文字や大黒様の絵柄などが入った極印が  
用いられた）。